

会議録

会 議 の 名 称	第4回 清須市公共施設個別施設計画（仮称）策定委員会
開 催 日 時	令和元年7月4日（木） 午前10時～11時30分
開 催 場 所	清須市役所 南館3階 大会議室
議 題	1 あいさつ 2 議題 (1) 適正配置方針について (2) モデルケースの検討について 3 その他
会 議 資 料	資料1 個別施設計画における適正配置方針の目的と手法 資料2 施設類型ごとの適正配置方針 資料3 今後20年程度の適正配置方針 資料4 ライフサイクルコストと数値目標の検証 資料5 モデルケースの検討に向けた対象事業の抽出
公 開 ・ 非 公 開 の 別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍 聴 人 の 数 (公開した場合)	0人
出 席 委 員	小松委員（委員長）、後藤委員、富田委員、飯田委員、西川委員、葛谷副市長、斎藤教育長、平子総務部長
欠 席 委 員	なし
事 務 局	〔総務部財政課〕 山下総務部参事、岩田課長、炭竈係長、清本主任、岩田主事
<p>1 あいさつ (岩田課長) 皆様、こんにちは。財政課長の岩田です。 本日は、お忙しいところ、本策定委員会にご出席いただき、ありがとうございます。 この会議は、規定により公開となります。よろしくお願いいたします。 それでは、第4回策定委員会を開会いたします。始めに、市を代表し、葛谷副市長から、ご挨拶を申し上げます。</p> <p>(葛谷副市長) 改めまして皆様おはようございます。副市長の葛谷でございます。 本日は大変お忙しい中、また、今は雨が止んでおりますが、お足元の悪い中、本策定委員会にご出席いただきありがとうございます。 昨年度に引き続き、3回の会議を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。 さて、本市においては、今のところ人口が増加傾向にあります。幸いなことに平成29年度には出生率が県内で1番高い自治体でありました。しかしながら、全国的には人口減少が始まっておりますので、本市においても例外ではないと感じております。</p>	

また、公共施設の老朽化についても、全国の自治体で問題となっております。昭和40年代から昭和50年代に建設された施設は老朽化が進行しており、本市においても例外でないため、将来の課題に備えた公共施設の適正配置、長寿命化、改築等を実施しなければならないと考えております。

これからの公共施設のマネジメントを考え、昨年より会議を開催してきました。本市といたしましても令和の時代に入っても持続可能で、市民の満足度を高める手法として限られた財源を効率よく効果的に使って公共施設の適正配置、長寿命化、改築等を行っていくための方向性をしっかりと議論していきたいと考えております。

また、昨年度の最後の会議では適正配置方針案をお示しさせていただきましたが、本日の会議をもって、適正配置方針を決定させていただき、その後には個々の施設の長寿命化等の整備にかかる概算費用やスケジュールを示した個別整備方針の作成に取り組みたいと考えております。

今年度は2カ年にわたる取組みの2年目に当たるため、最終的には個別施設計画を策定することとなりますので、皆様には活発なご議論をお願いして私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

2 議題

(岩田課長)

それでは、ここからは、小松委員長に会議の取り回しをお願いします。小松委員長、よろしくお願いたします。

(小松委員長)

改めまして、みなさんこんにちは。

事務局からご紹介がありました、昨年度に引き続き、委員長を引き受けることとなりました、名古屋大学大学院の小松でございます。

会議の取り回しを、ということですので、議題に移っていきますが、その前に、委員の皆様の中にも新しい方もいらっしゃいますし、職員の方も人事異動があったということもあり、皆様方の自己紹介を、お名前、所属など簡単に結構でございますので、お願いたします。では、市役所の方から順番にお願いします。

【委員自己紹介、続いて事務局自己紹介】

(小松委員長)

では、議題に移りたいと思いますが、本日は、前回検討中であった適正配置方針(案)を中心に事務局から説明していただきたいと思ひます。

それではお手元の次第をご覧ください。本日は議題(1)「適正配置方針について」、議題(2)「モデルケースの検討について」の2つの議題を議論してまいりたいと思ひます。

議題(1)と議題(2)の2つをまとめて事務局から説明してください。

(炭竈係長)

財政課管財係の炭竈でございます。資料1をご覧ください。

【資料1を説明】

(清本主任)

財政課管財係の清本でございます。資料2及び資料3をご覧ください。

【資料2、3を説明】

(炭竈係長)

続きまして、資料4及び資料5をご覧ください。

【資料4、5を説明】

(小松委員長)

ただいま事務局から、議題(1)、(2)の説明をしていただきました。

まず議題(1)では、これまで取り組んできた、市における公共施設の適正配置方針について、最終的な方向性の説明がありました。

また、改修・更新等に関わる経費の試算と数値目標の検証について、今後は本日説明のあった方針をもとに、整備工程表やライフサイクルコストの試算を踏まえ、施設類型別の整備方針をまとめていくとのことでした。

続きまして、議題(2)では、議題(1)で示された適正配置方針の中から、今後の適正配置の推進及び事業化に向けて、象徴となる事業を抽出し、効果の検証や具体化にあたっての課題点等を抽出するため、2つの事業を検証していくことの説明がありました。

これらの説明を踏まえ、議題(1)及び議題(2)について何かご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

(小松委員長)

資料2の適正配置方針の効果について、全ての施設の改築時において、現在の規模の90%まで規模縮小することを前提としているのか。学校においては延床面積が7%の削減に留まっているのはなぜか。また、幼児・児童施設について、延床面積が増加しているのはなぜか。

(事務局)

計画期間である2056年度までの期間において、改築時期を迎える施設については、90%まで規模縮小することを前提に試算している。学校については、計画期間内に改築時期を迎えない施設があるため削減率は7%となっているが、全小中学校において改築の際、将来人口等を見据えて規模縮小を検討する。幼児・児童施設については、今年度移転改築予定の西枇杷島児童館の延床面積の増加分を見込んでいるためである。

(小松委員長)

学校施設の延床面積は、どの自治体でも4割～6割と全体の大半を占めていることから、公共施設マネジメントを行う上では、学校施設の複合化等の方針によって全体が左右されることになる。清須市の学校施設では、当面の間は長寿命化改修を実施することになるが、第3期以降からは改築時期を迎える施設が増加するため、その際に複合化等を検討することによって、適正配置方針の効果の精度も向上していくと思われる。

(事務局)

第3期以降に集中する学校施設の改築に向けて、第2期の新川小学校の改築の際に、福祉センター等との複合化を検討し、先行事例として示したいと考えている。また、将来的には、時代の流れに応じて、小中一貫校なども検討していく必要があると考えている。

(富田委員)

保育園の民営化について、建物や土地の所有、働いている職員の異動など、具体的に教えてほしい。

(事務局)

清須市としては、公共施設の延床面積を削減する観点から、民営化の際に所有権も引渡したいと考えている。また、働いている職員については、私立や他の公立園へ異動することになるとは思われるが、具体的には決まっていない。

(富田委員)

譲渡とは、施設を全て買い取ってもらうことと思われるが、買い手がいない場合はどうするのか。

(事務局)

清須市としては、有償で譲渡することが理想であるが、買い手がいない場合は、施設の廃止や計画の見直しが必要と考えられる。

(富田委員)

適正配置方針で示された事業は、予算が付かないと進められないのではないのか。

(事務局)

一定の時期に費用が集中しないよう、先を見据えて計画的に事業を実施していく必要があるが、大規模な事業の場合は、積立てや借入れなどにより対応することになると考えられる。

(西川委員)

西枇杷島児童館が西枇杷島小学校の近隣に移転することで、児童にとって移動距離が短く、安全になると考えている。一方で、児童館と放課後子ども教室との統合は検討しないのか。

(事務局)

各々、文科省と厚労省の管轄でソフト面での内容が異なり、現時点で清須市単独の判断は困難であるが、国の政策や児童数の動向によっては、統合を検討する時代を迎えると考えている。

(西川委員)

現在、園児と児童を預けているが、児童館までの距離が遠く、一人で行き来させるのが心配であるため、学校の中にあると安心できると考えている。放課後子ども教室の児童の多くは、長期休暇の間は児童館で活動することになるが、現在の職員数では対応が困難であるため、協力体制が出来れば負担を軽減できると考えられる。また、保育・児童施設と小学校を複合化する場合は、行事が重ならないように、市全体としてスケジュールを調整し柔軟に対応して頂けると、子育て世代として嬉しく感じる。

(平子総務部長)

先日実施した内部検討会議においては、ハード面での内容が多かったが、ソフト面での運用も重要になってくると考えられる。

(西川委員)

小学校の中に児童館の機能が複合化されれば、ハード、ソフト両面においてメリットがあると考えられる。

(齋藤教育長)

清須市は、他市町とは異なり児童数が増加している状況であり、放課後子ども教室の運用にあたっては、小学校に空き教室がない中で、昨年度4箇所増設したところである。今後は、児童数の推移によっては、空き教室等の有効活用の検討が必要になると思われるが、現時点では児童の安全を守るための長寿命化改修に力を入れており、他市とは少し異なる点についてご理解を頂きたい。

(葛谷副市長)

放課後子ども教室について、これまでは一部の学校での運用に留まっていたが、昨年度から市長が各学校にお願いし、空き教室がない中で、全ての学校で運用することになった。

また、現在の児童館は、長期休暇中は定員オーバーになることは承知しているが、保護者の利便性を考えていない訳ではないため、ご理解を頂きたい。

(飯田委員)

40年先を見越した計画であるが、市民の安全、安心、幸せを考えると、民間のように、もう少しスピードを上げて取組む必要があると考えられる。複合化等の事業は個々の意見に左右され難しいと思われるが、本計画の内容は十分に理解しているため、辛抱するところは辛抱しながら、行政に協力していきたいと考えている。

(後藤委員)

スポーツ施設として、主に学校の体育館を利用している。適正配置方針は、校舎の延床面積に主眼を置いた計画と思われるが、実際の改修等にあたっては、体育館やグラウンドについても、使用性等の向上を視野に入れて、取組んでいただけると幸いである。また、個人的にはプールの統合は賛成であるが、学校施設以外の魅力のあるスポーツ施設があると幸いである。削減するばかりではなく、必要に応じて施設または機能を増やすなど、夢のある計画にして頂きたいと考えている。

(小松委員長)

各市町でも、学校の運動施設については、地域開放などにより運用面での見直しが図られているが、現実として団体利用に限定されていることが多い。そのため、健康増進を目的としたパーソナル利用も出来るように配慮すべきであり、その場合は、限定的な場所だけではなく、身近に健康増進に寄与する施設があっても良いと考えられる。本計画は、ポテンシャルを発掘する意味で重要であり、質の改善を突破口にして取組んでいけると良い。市には様々な行政サービスがあるが、法体系や予算等が別であり、それらをどのように乗り越えるかが課題でもあり、醍醐味でもある。国でも今後は制度改革を行う可能性があるが、市でもそういった目線で取組んで頂きたい。学校の複合化等については、建築的にはセキュリティも含めて問題なく対応可能であるが、制度的な壁の方が大きいと思われるため、知恵を絞って運用面で上手く取組む必要がある。清須市では、第3期以降に本格的な複合化等の事業が多くなるが、それらを実現しなければ適正配置の効果がないため、それまでに増えると予想される様々な事例を参考に取組めると良い。また、建築基準法も今後は緩和される動きになると考えている。

(齋藤教育長)

新川小学校と新川福祉センターの複合化について、児童数が増加し、学校側に空きスペースがない現状において、イメージすることが困難である。

(事務局)

新川小学校は、市内で最初に改築時期を迎える施設であり、適正配置方針では最も近い福祉センターを複合化する計画としている。また、実施予定時期の2035年度においては、児童数が減少している可能性もあり、机上での検討ではあるが、公平な目線で打出した計画である。不透明な部分が多いと思われるが、学校の再編なしでは数値目標の達成が困難であることから、新川小学校の複合化をファーストステップとして、現段階では目標を掲げて取組んでいきたいと考えている。

(平子総務部長)

公共施設の中で、学校の敷地が最もまとまっており、再編にあたってはキーポイントに

なると考えている。将来的には、人口減少・少子化が進行していくと予想されることから、新川小学校をはじめとして、福祉施設や児童施設等と統合することで、利用者にとっても融通がきく施設になると考えられる。

(葛谷副市長)

2018年度の統計では、既に5人に1人が70歳以上であると聞いており、将来的には、学校の調理室の一般利用や多世代の方々が廊下を歩いても違和感のない時代になっていくと想像できる。学校の敷地に、単純に施設を併設するだけでは、延床面積の縮減効果は期待できない。複合化に対する先生方の悩みは理解できるが、このままでは適正配置が進んでいかないため、既成概念を払拭して、お互いが融合し合うことが今後求められると考えている。

(小松委員長)

最初はお金から始まった計画であるが、お金の議論ばかりしては明るい未来は到来しないと思われる。計画策定をきっかけとして、問題点を考え直し、変化を前向きに捉えていけると良い。20世紀が子供の時代であるとするれば、21世紀は高齢者を中心とした時代であり、これまで経験した事がないような時代を迎える可能性がある。別々のものが一緒になることのメリットを考え、こうあるべきという既成概念を払拭し、悲観するばかりではなく、上手く向き合っていく方法を考えることが重要である。今の時点の価値観で判断するのではなく、この計画をたたき台としながらも、時代の流れや国の政策等に応じてチェックし、その都度、見直しを図っていくことが重要であると考えている。

(富田委員)

清須市は、東海豪雨で大きな被害を受けた過去があることから、統廃合等の検討にあたっては、避難所の確保についても検討して頂きたい。

(事務局)

避難所についても、配慮していきたい。

3 その他

(小松委員長)

つづきまして、「その他」ですが、本日の会議全体を通しまして、何かご意見・ご質問等はございますか。

それでは、本日の事務局からの説明については、ご了承いただいたということで、今後はこの適正配置方針に基づいた施設の整備方針について検討を進めていくことと思います。では、以後の進行は、事務局へとお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

(炭竈係長)

本日はありがとうございました。

本日も説明いたしました配置方針に基づき、今後は整備方針の策定にとりかかります。また、延床面積の縮減効果の検証具現化にあたっての課題点等を抽出するため、2つの事業をモデルケースとして検証します。

検証結果等につきましては、次回会議でご説明申し上げたいと考えております。

(岩田課長)

長時間にわたり、どうもお疲れ様でした。本日、財政課管財係から説明いたしました内容につきまして、ご不明な点などがございましたら、何なりとお問い合わせいただければ幸いです。

以上で、第4回策定委員会を閉会いたします。

本日はお忙しいところご出席いただき、ありがとうございました。